

松山大学大学院言語コミュニケーション研究会

特別講演会

Pygmalion から *My Fair Lady* へ —— イギリスの言葉、階級とジェンダー ——

講師

新井潤美 氏

(東京大学大学院人文社会系研究科、
欧米系文化研究専攻
英語英米文学講座教授)

〈概要〉

イギリスの劇作家ジョージ・バーナード・ショーの戯曲 *Pygmalion* では、音声学者ヘンリー・ヒギンズが、労働者階級の花売り娘イライザの話す言葉を変えることによって、彼女が上流階級の間人であると周りに思わせられるかどうかを、友人と賭けをして、勝利を収める。ショーはこの作品を通して、イギリスの階級制度、ヒギンズのような紳士階級の無責任さ、労働者階級の女性の立場の弱さなど、さまざまな社会的な批判を行なっている。しかしこの作品はそれが最初に上演された時から、ヒギンズとイライザの、階級を超えた「ロマンス」として捉えられ、さらにショーの死後には、*My Fair Lady* というタイトルで、ミュージカルとして大きな成功を納めた。ショーの原作がポピュラーなロマンティック・ミュージカルとなった過程において、「階級」の要素がどのように変わっていったのか、若い女性が登場することによって、「ロマンス」の要素がどのように一人歩きをするようになったのかを見ていながら、一つの作品が原作者の意図に全く反した受容のされ方をするという興味深い例の一つとして、原作とミュージカルを比較したい。



2024年

12月20日 **金**

16:00-17:30

於・214教室

お問い合わせ

松山大学大学院言語コミュニケーション研究会事務局
TEL: 089-925-7111 (代表)